**「失われた物語」（巻物を改題）4－1**

概要

学者の所有する貴重な本が紛失した。しかしそれは、保険金詐欺を目論んだ学者の自作自演であった。学者は馬車に細工して、そこに本（巻物）を隠していたのだ。

初期証拠カード「本の紛失」に対して

学者　　「あの本を探してくれるのかね。あれは本当に貴重な本でね。この国で所有しているのは私くらいだろうな。頼まれて展示会へ提供したのだが、まさか無くなってしまうとはね……。まあ、頑張ってくれたまえ」

貴族　　「あの件か。あれさえなければ展示会は大成功だったのだがな……開催者の一人としては残念だ。協力してくれた商人氏も残念がっていたよ」

商人　　「あの本に関する調査ですか……。役に立つかはわかりませんが、紛失が発覚した時の状況を説明しましょう。あの時は展覧会後に予定されていたパーティーの開始直前で、貴族様とマスター氏、記者氏は既にパーティー会場に入っておりました。私と学者様は展示会場で片付けを手伝っていて、臨時で馬車の御者をやっていた靴磨き氏は、展示会場とパーティー会場の間を往復していたようです」

証拠カード「アリバイ」を渡して下さい。

マスター「学者様も災難だったね。借金までして買った本だったそうじゃないか。まあそういう品は他にもたくさんあって、そろそろ借金で首が回らなくなってるらしいがね」

証拠カード「学者の借金」を渡して下さい。

記者　　「あの本ですか、紛失前に取材させてもらったので覚えてますよ。あの本は巻物と言って、細長い芯に長い紙を巻きつけて保管しておくものだそうで、広げるとすごく大きく見えるのに、丸めるととても小さくなるんです」

証拠カード「巻物」を渡して下さい。

靴磨き　「あの日は雇われ御者としてあそこにいましたがね。会場内には入らなかったし、興味もなかったから詳しいことは全然知らないんですわ。他の人に聞いてください」

証拠カード「アリバイ」に対して

学者　　「商人氏の言う通りだ。私は片付けのために展示会場と馬車の停車場を何度も往復していた。注意していないと、貴重な品を適当に扱い出す者がいるのでね」

記者　　「ええ、あの時は取材のためにパーティー会場にいましたよ。貴族様やマスターもいました。紛失したのが発覚したあと、会場にいた人たちの持ち物検査がありましたが、何も見つかりませんでした」

証拠カード「持ち物検査」を渡して下さい。

靴磨き　「ええ、あの時は馬車で何度も展示会場とパーティー会場を往復してましたぜ。展示会場に戻ったら大騒ぎになってて驚きました」

マスター「ああ、あの時は会場にいたよ。パーティーの準備のために」

貴族　　「展示会の閉会式が終わって直ぐに靴磨き君の馬車でパーティー会場に移動して、それからずっとあそこにいたよ。出発前に馬車の車輪が外れてしまい、靴磨き君と学者氏に修理してもらっていたので、それほど早く会場入りしたわけではないが」

証拠カード「馬車の故障」を渡して下さい。

証拠カード「巻物」に対して

学者　　「ああ、確かにあの本はそういう作りになっているよ」

記者　　「私はさっき話したこと以上のことは知りませんよ」

他　　　「さあねえ、そういうのには詳しくないから」

証拠カード「学者の借金」に対して

学者　　「隠しても仕方ないから白状するが、それなりの額の借金をしているのは事実だ。とはいえ、返済のあてはある。心配は無用だ」

マスター「いや、俺も詳しいことは知らないんだ」

その他　「聞いたことがある気もするが、詳しくは知らないな」

証拠カード「持ち物検査」に対して

記者　　「他には何も知りませんよ」

貴族＆マスター「確かに持ち物検査はやっていたな。何も出なかったが」

残り　　「その場にいなかったので、詳しくは知らない」

証拠カード「馬車の故障」に対して

貴族　　「あれには往生したな。割とすぐに直ったから良かったが、時間がかかっていたら面倒な事になったかもしれない」

学者　　「ああ、確かにそんなことがあったな。私も少し修理を手伝ったよ」

靴磨き　「あれには驚きました。壊れるような馬車には見えなかったんで。そうそう、あの馬車に関して変な話がありまして。あれはレンタルの馬車だったんすが、展示会の前日と、更に翌日にも学者さんが借りたそうで。翌日の方はわざわざあの馬車を指名したんだとか。普通壊れた馬車なんて借りないと思うんですがねえ。まあ、あれは商人の知り合いの馬車なんで、詳しい話は彼に聞いて下さい」

証拠カード「学者が馬車を？」を渡して下さい。

その他　「へえ、そんなことがあったんですか」

証拠カード「学者が馬車を？」に対して

商人　　「ええ、確かにそれは私の知り合いの馬車です。たしかにそれは変ですね。調べてもらいましょう……（少しの間）。結果が出たようです。車輪を意図的に外れやすくした痕跡と、馬車の下に小さな箱を取り付けていた痕跡が見つかったそうです」

　　　　　証拠カード「細工の痕跡」を渡して下さい。

学者　　「たまたま連続して必要な用事ができただけだよ。他に理由はない」

適当に狼狽えて下さい。

証拠カード「細工の痕跡」、「学者の借金」、「巻物」に対して（この三つが絶対必要というだけで、他の証拠が一緒に提示されても問題はない）

学者　　「そこまで調べられては、言い逃れは出来ないね。展示会の前日に思いついた割には上手くできたと思ったのですがね。正直、馬車の故障のタイミングが合わなければ実行しないつもりだったし。悪いことはできないものだ」

　　　　　真相カード「学者の自白」を渡して下さい。

その他　「そこまで調べが付いているなら、直接学者に問いただすべきでしょう」

**「毒殺」1－9**

概要

アンダーソン氏が毒殺された。容疑者のボストン氏が残した決定的な証拠（毒の入っていた瓶）を探し出して、彼を犯人と特定した。

初期証拠カード「アンダーソン氏の死」に対して

靴磨き　「いやあ、特に知っていることはありませんね」

商人　　「容疑者であるボストン氏は、事件の少し前に、私の店で変わった買物をしましたよ。とある貴族が恋人のために作らせた一品物の香水瓶で、中々見事な作りなのですが、「愛するエレクトラへ。ヘンリーより」なんてのが彫り込んでありましてね。彼は香水なんて使いませんし、人に贈るわけにもいかないでしょうに、何に使うつもりなんでしょうかね？」

証拠カード「B氏の買い物」を渡して下さい。

貴族　　「ああ、あの二人か。仲が悪いとは聞いていたが、まさかあんなことになるとは……いや、まだ犯人と決まったわけではなかったな。忘れてくれ」

マスター「ボストン氏は、商人さんの店のお得意様らしいね」

記者　　「あの事件ですか。特に情報は掴んでませんねえ」

学者　　「あの事件か。なかなか興味深い毒を使ったようだね。なに、私は毒には少々詳しいのでね。警察から相談を受けたこともあるほどだよ」

証拠カード「B氏の買い物」に対して

靴磨き　「ああ、それはこの前拾った瓶じゃないかと。ほら、これですよ。道に落ちていたのを、綺麗な瓶だったので売れないかと思って拾ったんですが、変な愛の告白が入っているせいでどこも買ってくれなくてね」

証拠カード「落ちていた瓶」を渡して下さい。

商人　　「あれ以上のことは何も知りませんよ」

残り　　「まあ、たしかに変な話だね。そう言えば、この前靴磨きが変な瓶を拾ったとか言っていたな」

証拠カード「落ちていた瓶」に対して

学者　　「ふむ……これには、毒が入っていた痕跡があるね。比較的最近、具体的には事件のあった辺りまで入っていたようだよ。しかもこれは犯行に使われたのと同じ毒だ」

真相カード「決定的証拠」を渡して下さい。

商人　　「ああ、これは間違いなくボストン氏が買っていった瓶ですね」

他　　　「綺麗な瓶だな。変な文章が入ってなければ欲しいくらいだ」